

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

① 国際理解

○ 世界一大きな授業 (第5・6学年)



授業では、プレゼンテーション教材とワークシートを用いて行い、学校に通いたくても通えない子どもたちの現状をクイズ形式で学ばせたり、実際に字が読めないことで生じる困難の例を体験させたりすることで、学校で勉強する必要性を味わわせた。

「世界一大きな授業」を通して、支援に対する児童の意識を高めること

ができた。高めることができた児童の意識を無駄にしないためにも、文房具などの物資の支援や世界寺子屋運動への参加など、児童が考えた具体的な支援策を実行するための方法を、学校や地域全体で考えていくことが必要である。今後も参加して、国際感覚豊かで行動力のある児童の育成を目指して取り組んでいきたい。

○ ニュージーランド国際交流 (第1・3・5学年)

ニュージーランド人講師を招き、外国の行事や習慣を知ったり、異なる文化をもつ人と交流したりすることを通して、国際理解の基礎を養った。

○ イタリア国際交流 (第2・4・6学年)

イタリア人講師を招き、外国の行事や習慣を知ったり、異なる文化をもつ人と交流したりすることを通して、国際理解の基礎を養った。

○ 国際交流デー (全学年)

本校では、日本語学校に通う様々な国の学生 (IC NAGOYA) と交流を行う「国際交流デー」がある。本校の児童が、外国文化に直接触れる貴重な機会となっている。児童は、日本の文化である折り紙を一緒に折って学生にプレゼントしたり、日本の歌 (茶摘み) を一緒に歌ったり、相手の国のゲームを一緒にしたりして、



楽しみながら外国の文化に親しんだ。

○ 伝統文化体験（第6学年）



・ 雅楽鑑賞

本校校区内にある真清田神社から職員を招き、雅楽を演奏してもらった。児童は、雅楽鑑賞を通して、日本の伝統文化に親しんだ。

・ 茶道体験

地域の方々を講師に招き、児童は実際に茶道の立居振舞、礼法、点前を学んだ。茶道具に触れ、学習意欲を高めるとともに、茶道に込められた日本の文化に親しんだ。

② 平和・人権

○ 福祉実践教室（第5学年）

障害のある方を講師として招き、車椅子や点字、手話、ガイドヘルプ、高齢者疑似体験の体験を実際に体験した。車椅子や点字、手話、ガイドヘルプ、高齢者疑似体験の体験により、障害を身近なものとしてとらえ、福祉の重要性を感じることができた。福祉の大切さと、障害がある人への対応の大切さを学び、実践への小さな一歩となった。



○ アフリカへ毛布を送る運動（全学年）

生活に苦しむ人たちに対して自分たちにできることはないかと代表委員会で話し合い、この運動を行った。ポスターを作成したり、呼びかけ強化週間を作って毎朝正門に立ち、全校児童に呼びかけたりするなど自主的に取り組んだ。この活動を通して、生活で苦しむ人たちのために貢献しようとする気持ちを育てることができた。



○ 宮西小人権週間（全学年）

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、平等である」とする人権尊重の理念を理解させ、思いやりの心を持ち、自他共にかげがえのない命を大切に作る行動について、いじめ防止との関わりをもたせながら啓発活動を行ってきた。

人権週間での取り組みとして、学校全体で人権について考える「心の学びタイム」に取り組んだ。また、学校全体でいじめストップ運動を行い、各学級でスローガンを考え、いじめストップ宣言を行った。その他にも、「いじめをノックアウト」に提出した「100万人の行動宣言」の用紙を昇降口や教室に掲示したり、「人権を理解する作品コンクール」に参加したりした。

○エコキャップ運動（全学年）

年間を通してペットボトルキャップの回収を行った。各教室や昇降口前にエコキャップボックスを設置したり、委員会の児童がポスターや昼放送で啓発を行い、紹介したりすることで、進んで協力する児童の姿が多く見られるようになった。全校集会では、ワクチン支援を行っている団体に、集まったキャップを贈呈する機会を設けた。



③ 環境

○緑のカーテン（第4学年）

本館南側1階から2階にかけて、ツルレイシ・アサガオ・フウセンカズラなどの植物を育て、緑のカーテンを作った。南からの直射日光を避けることができ、また実のなる植物を使ったことで、その楽しさを味わうこともできた。また、4年生を対象に「緑のカーテン出前授業」を取り入れた。緑のカーテンによって温度が大きく違ってくるところを実験から体験的に学び、環境問題や緑のカーテンによる効果について、理解を深めさせることができた。

○リサイクル活動（全学年）

・アルミ缶回収

毎月2回アルミ缶回収を行っている。今年度は、児童扮するエコレンジャーが登場して活動を活性化させたり、アルミ缶を持ってきた児童を昼の放送を使って発表したりして、取り組みに参加しやすいようにした。集まったアルミ缶の量や活動の様子は、エコスクール委員会から全校児童に放送で成果を発表し、活動の大切さを理解させた。



